

2015年(平成27年)5月

♪♪♪♪♪《25の会と指笛の家》♪♪♪♪♪

「指笛の家」それは練馬区大泉学園町に指笛音楽創始者故田村大三先生のご自宅の門に掲げてありました。平成3年大三先生と静海先生が結婚してから、指笛音楽を習うために門下生が集まった家です。

その門下生は斎藤会長、中村氏、河津さん、奥津さん、有吉氏、故吉田氏、藤好(清)氏、藤好(真)氏、倉木氏、遠方長野からは片井氏、私武井などなどまた、故宮城氏は指笛でメロディーを奏でるだけでなく、何種類もの小鳥の鳴き声を吹く達人でした。その他何人かの人たちが出入りする賑やかなレッスン場でした。音階を静海先生のピアノに合わせ何度も練習し初心者はそれから「ちょうちょ」のメロディーに入って「蜂がとぶ」などテキスト初、中、高等科の順にレッスンを受けました。私などは音痴、リズム感なしの劣等生で本人は無論ピアノで教授下さる静海先生もかなりご苦労なさっていましたが「指笛の家」が無くなるまでレッスンを受け続けてきました。

門下生の皆さんは上達の違いはそれぞれでしたが指笛の家で開かれた25の会(大三先生が神田神保町で始めて指笛音楽を街頭で演奏披露した記念日)に毎月集まっていました。

レッスンを受けている門下生だけでなく指笛音楽を愛する仲間、各地にいる門下生が25日になると先生のお宅に集まり飲んで食べて語り合ったものです。手料理は静海先生の下、もっぱら女性門下生の担当になっていました。

25の会のある日(楽友会通信 No19より)

<吹くから飛ぶよ>

大三先生「指笛の会に集まって来る人は、皆いい人ばかりだ」

門下生A「きっと、腹黒いものが吹き飛んじゃうんですね」

大三先生「???はっはっはっ---きっとそうだね」

<一石三鳥>

門下生B「私は吸うのをやめて 吹くことを始めました そうしたら健康を取り戻し、社会も広がり、小遣いがたまり始めました」

門下生C「(年間タバコ代) 100,000円-3,000円(楽友会年会費)=97,000
10年で970,000円だ!!」

門下生B「うーん 計算上はそうだねー、すごいねー」

こんな駄洒落の飛び出す楽しいひと時でした。

楽友会が発足（会長・田代氏）し、61周年発表会（東京芸術劇場）からは準備、進行を担い皆さんますますレッスンに力が入り25の会も大いに盛り上がりました。

さてさて楽友会通信第1号は1998年（平成10年）11月に斎藤会長が編集者となり大三先生の『遠い思い出』神田神保町の街頭に始めて立ち、指笛に命を懸ける決心をしたお気持ちと、指一本を銜えてそれぞれ自らの“心”を伝えることの出来る喜びを、自分自身のもの出来たことを、心から悦び合いましょうとの寄稿。

楽友会通信のシリーズ『私と指笛』の第一寄稿者は元会長の田代氏でした。第一号から年4回、会員の声を集め会員に事務局からの情報を発信する通信は、会員が各地にちらばっているこの会には大切な絆の元でした、2006年まで8年間斎藤会長が一人で編集、発信していました。2007年からは竹中氏、松谷氏、武井、有吉氏の4人の編集者で受け継ぎ斎藤会長のご負担が少し軽くなったことと思います。私などは編集者の一人に加わって、原稿依頼、期日までの発行e t c. 年一回担当なのにこれは大変！と嘆くのに斎藤会長は8年間よくぞ続けてくださったと、そのご尽力に感謝するばかりです。

『指笛の家』が無くなった今でも、Uスタジオというレッスン場所を得、毎月「25の会」は開かれています。そこは指一本で音楽を奏で自らの“心”を伝える喜びを自分自身のもの出来た仲間が集う場所で、指笛の絆は固いものと思います。

武井 洋子



♪♪♪《指笛音楽の普遍的発展を図る組織名称の提案》♪♪♪

もう50年のお付き合いになろうか、山梨に住む作詞家竹内秀秋様より「指笛の発表会チケットが2枚あるが自分の代わりに行ってくれないか」とチケットが送られて来た。

昔、山梨時事新聞社の記者時代に田村大三先生を取材し記事にしたことがご縁で大三先生から送られたと聞く。

練馬文化センターが私と指笛の初めての出会いの場所となった。

透明感と音の大きさに感動し、是非とも覚えたいと思い後日、大三先生の

ご自宅にお電話を入れた。

静海先生に「まだ音の出ない人は斎藤さんが主催しているMMCに行かれたら如何でしょう」と言われてMMCの教室に伺った。

斎藤さんの指導が良かったと思う、たまたま行った初日に音が出てチョウチヨを吹くことができた。それからは煽てられて、褒められて気持ちよく通っている。老人ホーム等で演奏する機会も有りその度に何人かの人に協力を仰ぎ、出来るだけ多くの人達と一緒にに行けるように心がけている。

指笛の演奏を聴いた方がまた聴きたくなるには大三先生に少しでも近づく努力とレベルアップを図らなければならないと思うようになった。上達するにはどうしたら良いか。目標を立てることが大事だが、一人で練習するにも限界がある。ならばコンクールをやることで認知度も上がるだろうし、それに向かって練習出来るかも知れないと5年前に楽友会に指笛コンクールを提案した。

簡単な企画書も提出したがいろんな意見があり実現していないのが現状である。

折角ならもっと上手になりたいと思う。《失敗する人は失敗しそうになった時に止めてしまうから失敗者だ》と聞いたことがある。諦めずに続けていたら上達するのではないかと思っている。

今後10年、20年と、この素晴らしい指笛を残して行くためには、次を担ってくれる若い人達を育てることが大事なことは当然であるが、名前も大変大事ではないかと思うようになった。

現在日本で最も大きな組織の殆どが〇〇協会と名がついて運営されている。指笛をしっかりした組織として残すには他の人に登録される前に名前を押さえた方が良いのではないかと考えるようになった。楽友会の役員会に何回か提案してみなさまの了承を得ることが出来た。特許庁に問い合わせをしたところ「指笛に関しては似た名前も現在はありません」と言う返事であった。

そこで指笛音楽80周年と言う経緯を考慮し「日本指笛協会」と言う名称で登録すべく現会長の斎藤秀元様のお名前で申請だけは済ますことが出来ました。

最終的に登録の返事が来るのは4~5カ月先と言う事だが、みなさまと話し合いを重ねながら方向性を決め、指笛音楽が発展して行くことを願って止みません。

日本指笛協会登録に関する現状ご報告でした。 H27.3.7

片山 陽一



《事務局からのお知らせ》

有吉 憲行

1. 高橋義郎様 ご逝去のお知らせ
かねてより入院加療中でしたが、去る四月九日病状悪化して、享年九二歳で他界されました。
葬儀は近親者にて四月十二日に済まされました。
楽友会からは花束をお送りさせて頂きました。ご冥福をお祈り致します。

2. 指笛発表会（9月19日（土））の練習日について
何れもUスタジオにて13時から17時まで実施いたします。
これ等の日は役員会及び25の会も兼ねています。
石塚先生のピアノによるご指導が受けられます。先生へのお礼と会費を含めて一人1回2000円です。
 - # 1. 6月20日（土） ご都合によりピアノの石塚先生は来られません。
各自演奏曲のテープかCDをご用意ください。
 - # 2. 7月26日（日） 石塚先生のピアノ伴奏があります。
各自楽譜をご用意ください。
 - # 3. 8月29日（土） 石塚先生のピアノ伴奏があります。
各自楽譜をご用意ください。
 - # 4. 9月12日（土） 石塚先生のピアノ伴奏があります。
各自楽譜をご用意ください。

3. 5月8日（金）締め切りの葉書による指笛発表会参加申込者数
只今のところ 22名の参加者です。

《 81周年記念指笛音楽研究発表会参加申込者 》

斎藤 秀元

参加申込みと不参加合わせて30名の方々からご返事を頂きました。参加申込みをされた方は次の方々です。

河津菊枝	斎藤秀元	武井洋子	中村倫二	倉木成伊知	塩谷彰宏
杉田隆則	植松久美子	牛山宏隆	有吉潤子	有吉憲行	有賀 猛
中澤 忍	坂田泰行	小林信也	片井久夫	藤好真也	藤好清晴
片山陽一	栗田勲夫	竹中速雄	奥津恭子		

(到着順 5月12日現在 敬称略)

次に申込み葉書に記載くださった近況等を紹介させていただきます。

《 参加予定者のみなさんより 》

- チラシは昨年のような老人の集まる趣味の会のようなカットは寂しい限りです。もっとすてきに……。 (河津)
- 年寄りでも指笛演奏が楽しめる、をモットーに励まねばと思うこの頃です。 (斎藤秀)
- 去年は、直前になって母が病に倒れ、他界したため、発表会に参加できなくなり残念でした。みなさまにもご迷惑をおかけしてすみません。今年は昨年できなかった曲をやるつもりです。よろしくお願いします。 (倉木)
- 最近、依頼された「講演」の中や「レクリエーション指導」の中に「指笛」を取り入れて普及に努めています。 (塩谷)
- 持病の一つ静脈瘤が年と共に厄介になってきましたが、指笛で、圧縮酸素を送り込んで、抑え込んでみようと思っています。2月に結婚式披露宴で2曲程 (杉田)
- 先日はじめて公園にて一人で練習してみました。子供たちがものめずらしげに寄ってきてくれました。 (植松)

- 介護施設などでボランティア演奏しています。(牛山)
- 草笛や指笛演奏のボランティア活動をして、時々はシャンソンを歌って忙しい日々です。ニット教室もしています。今年も指笛のご指導をよろしくお願い致します。
(有吉潤)
- 草笛や指笛演奏のボランティア活動をしていて、忙しいです。健康にも気をつけて、頑張っています。(有吉憲)
- 聴く人の気持ちを楽しんでくれる、そんな指笛をやってみたいものです。(有賀)
- 十分な準備と練習を積んでお客様に“感動”いただけるように励みます。会員皆様の力添えと伴奏先生の厳しいレッスンを切にお願い致します。反省会の担当は喜んでお引き受けさせていただきます。(中澤)
- 宜しくお願いします。(小林)
- 今年は出演を計画的にしたいと思いつながら意思が弱くて実行できません。(片井)
- 家庭菜園や手打ちそば作りに挑戦。(藤好清)

《 不参加のみなさんより 》 (敬称略)

- 練習の成果を発揮されることを祈念します。兄の法事と重なりそうなので欠席します。(村山壮人)
- 今年も出演できず残念ですが当日はお手伝いさせていただきます。発表会のご成功をお祈りいたしております。(斎藤景子)
- また皆様の成果を楽しみにしています。(笹原和則)
- 次は参加できるよう願っております。(水沼武彦)
- お手伝いはさせていただけると思っております。(中澤宏則)
- お久しぶりです。笹原さんが引っ越して練習は各個にやっております。4月には

毎月1回は集まって、情報交換をしましょうと約束をしました。(片山俊一)

- いつも、お世話になります。(岩井悠紀夫)
- 左足(大腿骨)骨折後筋肉激減、困難を覚えております。指笛は機会を捕えて試しています。25の会に出席したいと願っていますが機会がなく今日に至っています。皆様にくれぐれもよろしくお伝えください。(添田信義)

※ 次の方からも不参加の連絡を頂いています。

片岡 隆

* 回答はがき未提出の皆さん、お元気でいらっしゃいますか。もしお忘れのようでしたら今からでも結構です。ご返事をお聞かせ頂ければ幸いです。

2015. 5. 16

指笛楽友会事務局



編集後記

ご協力ありがとうございました。25の会、通信と過去の資料をもとにまとめてみました、皆さまの助け合いがあつて続いていると感じた次第です。編集者 武井洋子